

交通・運輸

第四節 鉄道開通の歴史的変遷

一 徳島本線の発達過程

明治二十九年（八六）大串竜太郎が代表となり徳島鉄道株式会社を創立、明治三十一年に徳島―蔵本間、更に府中―西麻植間が開通、明治三十二年学島、湯立まで伸び、同三十三年湯立―舟戸（川田）間が完成、明治三十九年（九〇）「国有鉄道法」の国会通過により国有鉄道となり国に買収された。舟戸―池田間は、これより一五年後の大正三年（一四）に完成したのである。

さて、舟戸から我が半田町を通過し池田に伸びるまでに、半田町民のものすごい陳情運動、協力運動が展開していたことを今に残る資料から観てみたいと思う。

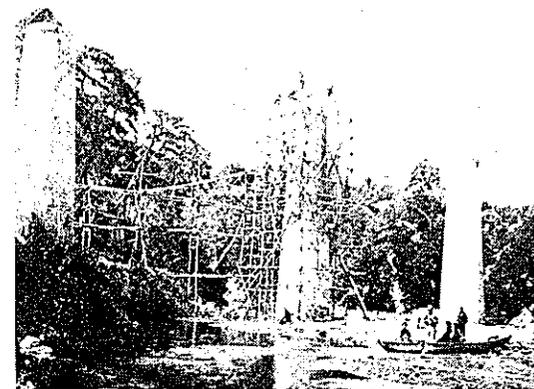
1 半田村長の半田村有志諸君への檄文

拜啓益々御安静大賀ニ候。陳、バ御承知之通徳島鉄道川田迄近日開通 尚延テ同地ヨリ地田迄 布設之計画ニ有之趣キ、抑モ鉄道之利益ハ実ニ鴻大ニシテ地方状景ヲ一変スルモノニシテ之レガ布設ハ一日モ速成希望シテ止マサル御同感之事ト存候。然ルニ此事業ハ事鴻大ニシテ容易之力ニ及サル儀ナレバ 美馬三好両郡沿道有志ト共ニ運動シテ速成ヲナラシメント被存、即チ別紙之通同盟者ヲ募集致度候間幸ニ御賛成之上ハ御記名被下度、此段書面ヲ以テ御通知旁得貴意度。早々頓首

第五編 経 済

の直線性と伊予街道から分岐道路をつ
けると総ての条件が整うので現在位置
に決定したらしい。半田駅の開設以来
年月と共に乗客数が増加し、特に旧制
脇町中学生等が定期乗車券を購入し初
めたことを皮切りに益々上昇した。半
田村、半田奥山村、重清村の玄関口と
して発展していったのである。

大正十二年三月十五日阿波池田保線
区半田分区が設置、また、昭和十四年
三月平捲式起重機三連が設置され貨物
取扱駅としても強化されてきた。



大正元年半田川鉄橋構築（煉瓦製橋脚）